

市民活動状況
(2月末日現在)

| | |
|------------|---------|
| 市内NPO法人数 | 32 団体 |
| 当センター登録団体数 | 138 団体 |
| 来館者数 | 1,285人 |
| 印刷機利用枚数 | 12,406枚 |

ひびき



発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。
 会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や
 大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。
 開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。
 休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日
 〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571
 E-mail katsudou@r-shimin.sakura.ne.jp URL https://ryugasaki-shiminkatsudo.net



りゅうがさき市民活動フェアサラスクエア サプラ2024 盛大に開催される！

目指せ！市民活動日本一

2月17日(土)、18日(日)11時～16時の2日間、サラスクエア サプラにて2日間で2,000人(主催者発表)の来場者があり、竜一のチャリーディングや吹奏楽から市民団体のオカリナやクラリネット・バンド演奏・歌や踊りなど16団体の魅力的な様々なステージ発表があり、会場は大いに盛り上がりました！

パネル展示も42団体の参加があり、今年は各団体に説明員の配置をお願いしたところ、快くご協力していただいた結果、あちこちの展示会場でお客様からの質問に応えたり、市民団体間の交流が生まれて大きな成果が得られました。

また、「SDGsパートナーをさがそう！ラリー」を実施したところ134人の参加者があり、タオルや手袋などの景品を持ち帰っていただき、市民団体がSDGsの課題に取り組んでいる様子を知るきっかけになりました。

フェアに参加いただいた高校生や市民団体の皆様、ありがとうございました！2025年もどうぞ、よろしくお願いいたします。



団体からのお知らせ

春の市民探鳥会のご案内

5月5日(日) 9:00～12:00 龍ヶ崎飛行場周辺

集合 9:00 現地駐車場 参加費 一人50円

事前の申込み不要 直接現地へ集合 雨天中止

絶滅危惧種のコジュリンや水田でムナグロなどの渡り鳥を探してみましよう

ご案内とご照会

龍ヶ崎バードウォッチングクラブ 岸久司 0297-66-8238



龍ヶ崎まちづくり講座「建築意匠系の学生から見た 行ってみたくなる古民家活用事例」報告

3月17日(日)、石田 開氏(東京大学建築学専攻意匠系研究室)を講師・ナビゲーターにお招きし、古民家・空き家の改修事例を紹介しながら、龍ヶ崎市の「まち」について参加された30名(会場21名、オンライン9名)の皆様と共に考えてみました。会場には市内の高校から3名の出席があり、幅広い年齢層の参加がありました。

講師は出身高校の歴史的な文化財である旧本館が全く活用されていなかったのでも在校生の愛着が沸かなかった経験から、建物に対してそのものの美しさよりも懐かしさや愛着などに価値を与えることができないかと考えるようになりました。瀬戸内海の直島、手島の空き家をアーティストの自由な発想で改修している事例を古民家の歴史性を無視していると批判し、企業の資本が投下されていない古民家で雨戸をガラス戸に改修してパブリックスペースを創出している事例は「人が活動している息吹を感じる建物」として評価しています。また、携わっている福島県浪江町の原発近くの住宅については「所有者はハウスメーカーの建物でも愛着があれば、残そうと努めることに対して協力して、美的な価値はないが歴史教育的な価値を見出して残したい建物として2階は被災した当時のままとし、1階をコミュニティカフェに出来ないかと検討している。」は興味深い内容でした。

こうした講義から感銘を受けたのは、人が集うことで賑やかな空間が生まれ、「原風景(人の心の奥にある原初の風景、懐かしさを伴う)となり、建物は息づく」ということです。石田講師は龍ヶ崎には随所に歴史的建造物が残されており、他市の住民からすると「羨ましい“まち”である。」人の記憶に残る“懐かしさ”から大切な思い出の場所を活かしたい残しておきたいと思うものである。龍ヶ崎市に存続する価値ある建物を骨董品にならないよう活かす活動をして欲しいと思う。と話されていました。

講義の後半、講師と参加者のディスカッションになり、懐かしさ、愛着、記憶に残る原風景となる“まち”(龍ヶ崎)でありたいなどの意見や願いがあり、終了となりました。



常磐線沿線市民活動センター交流会の報告

2月20日(火)常磐線沿線市民活動センター交流会が流山市民活動推進センターで開催されました。龍ヶ崎市市民活動センターもこの交流会のメンバーであり、島村センター長及び前田の2名で参加しました。

参加メンバーは阿見町民センターさん、柏市市民活動サポートコーナーさん、まつど市民活動サポートセンターさん、守谷市市民活動支援センターさん、オブザーバー参加のつくばみらい市市民活動まちづくりセンターさん、幹事の流山市民活動推進センターさん、そして龍ヶ崎市市民活動センターの7団体になります。

司会進行役は流山市民活動推進センターのセンター長橋爪晃平さん。先ず自己紹介及びこの交流会に何を期待して参加したか、といったことを参加者全員に話していただきました。

次に各市民活動センターさんの近況報告とこれまでの取り組みについて1団体5分程度発表していただきました。そして質疑応答があり第一部が終了しました。

第二部はテーマごとのワークショップが行われました。若い世代や子育て世代へのアプローチ、市民への周知・啓発について、市と団体の協働や企業とのマッチングについて、デジタルアプリの活用について、各々のテーマについてディスカッションで盛り上がりしました。

龍ヶ崎市市民活動センターにおいても、これらは克服すべきテーマなので、皆様の意見は大いに参考になりました。

約2時間30分の交流会ですが、橋爪氏の手際よい進行とアイデアは、今後のこうしたワークショップのお手本に出来ればと思っています。

龍ヶ崎から始まった市民活動センター常磐線沿線ネットワークはこれで7回目となり一巡しました。来年の交流会は龍ヶ崎市市民活動センターでの開催となります。



龍ヶ崎短歌会

曇り日の空寒さむと鎮まりて金柑啄む野鳥飛び来る

皆川 孝子

秒針を追いつつ起床す午前五時神仏拝みひと日の始む

吉田 綾子